

## 古典教材と古典文法の配列（一例）

— 中学との関連をふまえて —

筑波大学附属駒場中・高等学校 国語科

石川 祐爾， 石田城之助  
勝田 和学， 鈴木 信好  
日野 得隆， 梶 繁  
松井 一夫

# 古典教材と古典文法の配列（一例）

— 中学との関連をふまえて —

## 国 語 科

石川 祐爾，石田城之助，勝田 和学  
鈴木 信好，日野 得隆，桎 繁  
松井 一夫

（はじめに）

本校では、中・高一貫教育に重点をおいている。したがって、国語科においても中・高一貫の指導体系を確立し、効果的な指導法によって生徒の学習に対する関心・意欲を高めたいと考えている。

この目的達成のため、第1次計画として古典学習を取り上げ、昭和51年度より本校中学3年・高校全学年の生徒を対象に、52年度・53年度には他校のご協力も得て、生徒の古典学習についての意識を調査し、中・高連繫時における諸問題を探ってみた。

本年度は、上記の調査結果を考察した上、本校の実状を考慮し、教師側の意見を加えて、本校の現状にふさわしい教材編成を作成してみた。

（本校の性格）

生徒は男子のみ。国立。中・高一貫の教育に重点をおいている。

中学校 各学年3学級。1学級の生徒数は約40名。

高 校 各学年4学級。1学級の生徒数は約40名。

本中学校卒業生徒はほぼ全員が本高校へ進学している。また、本中学校以外の中学校から約40名が本高校へ入学している。

本高校の学級編成は、全クラスとも本中学校以外の中学校からの進学者と、本中学校からの進学者が約1：3の割合で混成されている。

（本校の使用教科書） ※古典関係のみ

中学校 「現代の国語」新版1・2・3（三省堂）

高 校 「古文一・二」改訂版（角川書店），「徒然草・枕草子・源氏物語抄」（明治書院），

「新選漢文上・下」改訂版（尚学図書），「詩文 史記 論語抄」（大修館書店）

他に、「古典文法」新修版（明治書院）を中学3年生及び高校生全員に持たせている。

（方法と経過）

方法 アンケート形式で、毎年6月上旬に「古典学習についての意識調査」を実施。

経過 昭和51年度 第1回意識調査

対象・本校生徒 中3 117名 高1 153名

10月 全附連第18回高校教育研究大会に発表

本校「研究報告、第15・16集」に収録

昭和52年度 第2回意識調査（前年度のアンケートに修正を加えて実施した）

対象・協力校C校（公立・共学）

高1 90名 高2 52名

本校 中3 119名 高1 158名 高2 149名 高3 125名

11月 本校教育研究会に発表

昭和53年度 第3回意識調査

対象・協力校A校（私立・男子）

中3 122名 高1 124名 高2 109名

協力校B校（私立・共学）

高1 125名 高2 128名

協力校C校（公立・共学）

高1 122名 高2 102名

協力校D校（公立・共学）

高1 97名 高2 134名

本校 中3 119名 高1 156名 高2 145名 高3 145名

11月 本校教育研究会に発表

本校「研究報告、第18集」に収録

（アンケート調査の項目・内容）

アンケートⅠ 古典学習についての生徒の意識調査

項目Ⅰ 古典学習の意義・目的

項目Ⅱ 古典学習上の興味・関心

項目Ⅲ ㊸古文の表現 ㊹古語について、学習上の困難度・興味の程度

項目Ⅳ 文語文法について、学習上の困難点

項目Ⅴ 興味を持った古典作品とその理由

項目Ⅵ 今後読んでみたいと思う古典作品（作者）名

項目Ⅶ 古典の授業の進め方に対する要望

(1) 授業の形態

(2) 使用する教材（テキスト）の形（姿）

(3) ㊸古語 ㊹古典文法 の取り扱い方

項目Ⅷ 古典を学習し始めてからの生徒の意識上の変化

アンケートⅡ 本中学校以外の中学校から本高校に進学した生徒の中学時における古典学習の実態調査

項目Ⅰ 古典・文法の全般的学習

項目Ⅱ 口語の文法の学習

項目Ⅲ 文語の文法の学習

項目Ⅳ 古典における修辞法等の学習

項目Ⅴ 学習した古典作品名

項目Ⅵ 古典学習上の困難点

① 文法について

② 古文について

③ 漢文について

以上のアンケート調査の細目、及び結果については、本校「研究報告、第18集」をご覧願いたい。

### 古典教材と古典文法の配列

3年間にわたる上記「古典学習についての生徒の意識調査」の結果を一つの資料として、本年度は、別表のように、古典教材と古典文法とを中学・高校全学年にわたって配列してみた。

しかし、これは、一つの案であり、試みであるので、将来とも修正を加え、改善しながらより良き在り方を求めて行きたいと考えている。

(配列にあたっての考え)

○古典教材について

・中学校

1. 現在本校で使用している教科書に限らず、どの教科書においても、古典教材は、生徒が比較的良好に知っていたり、わかりやすく興味をもてる作品や、身近に使われる「ことわざ」・「格言」といったものから入り、扱い方も、最初は口語訳を中心にして部分的に原文を入れたり、対訳をつけたりして工夫され、無理のない導入で、易から難への学年進行も適当であると思われるので、現在使用している教科書を基盤にして配列した。

2. 教科書を中心にして、不十分な所はプリント等で補う。

(例) 1年 「竹取物語」・「平家物語」などの口語訳と原文との対比。

「いろはカルタ」や「ことわざ」・「格言」などの蒐集。

2年 「今昔物語」と芥川竜之介の作品との対比。

3. 学校行事に関連して教材を位置づけた。

(例) 3年 「奥の細道」を、5月下旬に行われる東北方面修学旅行に標準を合わせて学習させる。

・高 校

1. 教材の難易度、生徒の学力、生徒の精神的成長及びそれに伴う興味・関心の持ち方の変化を考慮し、教科書に収録されている作品を中心に選択・補充することにした。
2. 学年・学期に特色を持たせ、作品数をしばって、一つの作品について内容を深めることに主眼をおいた。
3. 漢文は、詩・史・文・思想の四部門に分け、学年ごとに繰り返して深めて行くようにした。
4. 古文において、1年の謡曲は能楽鑑賞を、2年の浄瑠璃は文楽鑑賞を予定したものであるが、その機会が失われた場合は割愛することがある。
5. 文学史は特に取り上げないが、その都度の作品解説、及び3年における「日本古典文学のまとめ」によって、ある程度の概念を持たせることはできると思う。

○古典文法について

・中学校

1. 3年の2学期の中ごろから始める。それまでに口語文法を終える。
2. 中学終了時まで、自立語を終えることを目標とする。
3. 「係り結び」・「敬語」等については、古典学習の中で、教材に即して取り上げる。

・高 校

1. 1年生は本中学校以外の中学校から約40名が進学し、その大部分は、古典文法の系統的な学習経験がないので、1学期前半は、本中学校で行ったことを学習させる。これは本中学校より進学した者も同時に学習し、中学時代の学習の確認・復習となる。
2. 敬語法や修辞法、その他特殊な言いまわし等については文法学習としては扱わず、教材に即して取り上げる。

(今後の問題点)

- 現代国語との結びつきをどうするか。
- 古文と漢文の結びつきをどう深めるか。
- 高校の場合、新指導要領に準拠した諸教科書が完成した時点で、教材を見直すことが必要となろう。

古典教材と古典文法の教材配列

☐ 囲みは校外指導との関連による

		1 学 期	2 学 期	3 学 期	
中 学	1 年	古 典		漢文の読み方 古文の読み方 故事成語 格言成句 平家物語 竹取物語 ことわざ 川柳 古典に親しむ	
		漢 字	漢和辞典 音と訓 漢字の特質	漢字の起源 六書	
	2 年	古 典		戦国策 狂言 今昔物語 める 古典への関心を深	
		漢字・漢語		漢音・呉音 部首 形声文字 漢字の構成	熟語の構成
	3 年	古 典	奥の細道	漢詩 徒然草 枕草子 新古今集 古今集 万葉集 古典を味わう	
		文 法		総説	活用のない自立語 用言
漢 語			漢語 四字熟語 複合語・派生語 漢語の多義性		

		1 学 期	2 学 期	3 学 期	
高 校	1 年	古 文	古文入門 中世文学Ⅰ 平家物語 説話 今昔物語 宇治拾遺 十訓抄	中世文学Ⅱ 徒然草 方丈記 謡曲	和歌 古今集 新古今集 百人一首
		文 法	学習の確認 総説 自立語 助動詞 附屬語Ⅰ	助詞 附屬語Ⅱ	
		漢 文	漢文入門 史伝Ⅰ 十八史略 方格言 故事成語 漢文の読み 熟語の構成	漢詩Ⅰ 唐詩選 思想Ⅰ 孟子 論語	漢詩Ⅱ 古体の詩 文Ⅰ 陶淵明集 本事詩
	2 年	古 文	平安文学Ⅰ 伊勢物語 土佐日記	平安文学Ⅱ 枕草子 大鏡	浄瑠璃 近世の文学 俳論 俳文 俳句
		漢 文	漢詩Ⅲ 唐詩選 史伝Ⅱ 史記	思想Ⅱ 論語 孟子 荀子 韓非子	文Ⅱ 古文真宝 唐宋八家文
		古 文	平安文学Ⅲ 源氏物語		
3 年	古 文		とめ 日本古典文学のま		
	漢 文	詩・史伝 長恨歌	漢詩Ⅳ 唐詩選 他 思想Ⅲ 荀子 韓非子 老子 莊子		